

静岡県緑化推進計画

【事業個票・評価シート・管理指標】

静岡県

2025年8月

目 次

1 主な取組 事業個票・令和6年度評価シート

基本施策	No	取組名	部局名・担当課名 / 団体名		ページ
(1) 花と緑のある 安らぎの場の拡大	1	緑化資材の提供	静岡県グリーン バンク	(環境ふれあい課)	4
	2	花の都づくり	経済産業部	農産振興課	6
	3	花育活動(寄せ植え)	静岡県グリーン バンク	(環境ふれあい課)	8
	4	里山学習施設の管理運営及び プログラムの提供	くらし・環境部	環境ふれあい課	10
	5	取組 No. 4 と統合	—	—	—
	6	しずおか棚田・里地くらぶ	経済産業部	農地保全課	12
	7	ふじのくに色彩・デザイン指針	交通基盤部	景観まちづくり課	14
	8-1	豊かな暮らし空間創生	くらし・環境部	住まいづくり課	16
	8-2	安全で美しいいえなみ整備	くらし・環境部	住まいづくり課	18
(2) 芝と親しみ、 スポーツを楽しむ 機会の増大	9	芝生地の普及支援、管理支援	静岡県グリーン バンク	(環境ふれあい課)	20
	10	芝生アドバイザーの育成・活用	静岡県グリーン バンク、 芝草研究所	(環境ふれあい課)	22
	11	用途に応じた芝生の開発	芝草研究所	(環境ふれあい課)	24
	12	工場緑化セミナー・緑化優良 工場等表彰	経済産業部	企業立地推進課	26
	13	県営都市公園の指定管理に よる芝生の良好な維持	交通基盤部	公園緑地課	28
(3) 花と緑による おもてなし空間の創造	14	花と緑のおもてなし空間整備 支援	静岡県グリーン バンク	(環境ふれあい課)	30
	15	公共施設の緑化	各部	県営施設所管課	—
		(県庁本庁舎)	財務部	総務課	32
		(県立美術館、地球環境史 ミュージアム、グランシッ プ、舞台芸術公園)	スポーツ・文化観光部	文化政策課	34
		(日本平夢テラス)	スポーツ・文化観光部	観光政策課	36
	16	県立森林公園アカマツ林再生	くらし・環境部	環境ふれあい課	38
	17	事業完了	—	—	—

基本施策	No	取組名	部局名・担当課名 / 団体名		ページ
(4) 花と緑があるまちの 魅力の向上と発信	18	さくら愛護思想普及の推進	静岡県さくらの会	(環境ふれあい課)	40
	19	さくらの保護育成	静岡県さくらの会	(環境ふれあい課)	42
	20	ふじのくに花の都しずおか・ 花緑コンクール、花育活動の 推進	経済産業部	農産振興課	44
(5) 社会総がかりの 緑化活動への参加促進	21	しずおかアダプト・ロード・ プログラム	交通基盤部	道路保全課	46
	22	リバーフレンドシップ制度	交通基盤部	河川企画課	48
	23	ふじのくに美農里プロジェクト	経済産業部	農地保全課	50
	24	一社一村しずおか運動	経済産業部	農地保全課	52
	25	森づくり県民大作戦	くらし・環境部	環境ふれあい課	54
	26	しずおか未来の森サポーター	くらし・環境部	環境ふれあい課	56
	27	ふじのくに森の防潮堤づくり	経済産業部	森林保全課	58
	28	緑化グループ支援事業	静岡県グリーン バンク	(環境ふれあい課)	60
(6) 緑化活動の核となる 人材の育成	29	緑化コーディネーターの 育成・活用	静岡県グリーン バンク	(環境ふれあい課)	62

2 管理指標

64

1 主な取組

事業個票・令和6年度評価シート

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	1		
事 業 ・ 取 組 名	緑化資材の提供		
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク	担当課	環境ふれあい課
基 本 方 針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基 本 施 策	(1) 花と緑のある安らぎの場の拡大		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	花の会、町内会、老人会等の地域の団体が緑化ボランティア活動として、身近に利用されている学校、公園、公民館等の公共施設の緑化活動を行うことに対して、緑化資材を無償配布し、街ぐるみの緑化を支援する。		
目 標	緑化資材の提供先を毎年度4,000団体実施することで、花づくりや緑化活動に多くの県民が携わり、公共的な施設等に花と緑のある安らぎの場を提供する。		
評 価 方 法	定期配布事業の年間提供先の件数により、評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
- 自治会、花の会、PTAなどの地域の団体が、公民館、公園、学校、道路等公共的な場所に植栽又は設置するために必要な草花の種子・球根、樹木等の資材を市町を通して無償で配布し、花と緑溢れる街づくりを支援した。 - 平成30年度から令和6年度までの累計は利用団体数30,657団体(年間平均4,379団体)で、球根5,007,464個、種子1,818㍑、桜10,635本、ツツジ3,869本、サツキ4,144本、その他苗木20,710本の配布を実施した。(年2回)			
今後の進め方(令和7年度)			
- 市町との連携を密にし、ボランティア団体から要望の多い緑化資材の配布を実施する。 - 各種物価が高騰するなか、ボランティア団体が望む緑化資材や数量を安定的に提供できるように努める。 - 要望が多く利用しやすい緑化資材の提供を行うとともに、静岡県の特徴を生かした緑化資材の提供も検討する。			

評価シート

取 組 番 号	1				
事 業 ・ 取 組 名	緑化資材の提供				
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク	担当課	環境ふれあい課		
令和 6 年度事業費	20,782千円				
令和 6 年度の実績					
令和 6 年度の利用団体数は4,088団体で、球根639,565個、種子205ℓ、桜1,045本、ツツジ553本、サツキ553本、その他苗木2,603本、炭1,045袋の配布を実施した。（春と秋の2回配布）また、静岡県緑化推進有識者会議委員より、配布種が毎年同じものにならないよう種類を変えた方が良いなどの意見があったことから、予算の範囲内で、オリエントリリーやスカシユリ等これまで配布した事のない種類の球根を追加で配布した。（春配布）					
目標に対する評価					
- 令和 6 年度利用団体数は、目標4,000団体、実績4,088団体、達成率102.2%。 - 地域の緑化ボランティア団体が行う公共的花壇の維持管理に必要な緑化資材の供給源として周知され、多くの県民が緑化活動に携わるために不可欠な事業となっている。 - 定期配布事業により提供された資材により、公園や学校など地域の公共花壇が花と緑で彩られ、市民に安らぎを与えることができている。					
令和 7 年度 of 取組内容					
- 市町と連携してボランティア団体のニーズを把握し、要望の多い緑化資材の提供を行う。 - 各種コストが高騰しているので市場の動向を注視し、予算の範囲内で安定した数量と種類の確保を図る。 - 桜を含む樹木や炭の配布は、他の予算の動向により検討する。					
参考（写真・図表等）					
○定期配布					
年度	H30～R3年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	合計
利用団体	17,803	4,497	4,269	4,088	30,657
球根（個）	3,103,354	618,645	645,900	639,565	5,007,464
種子（ℓ）	1,089	269	255	205	1,818
桜（本）	7,160	1,405	1,025	1,045	10,635
ツツジ（本）	2,588	279	449	553	3,869
サツキ（本）	2,553	489	549	553	4,144
その他苗木（本）	12,632	2,645	2,830	2,603	20,710

緑化推進計画 事業個票

取組番号	2		
事業・取組名	花の都づくり		
部局名/団体名	経済産業部	担当課	農産振興課
基本方針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基本施策	(1) 花と緑のある安らぎの場の拡大		
取組項目	☐ 緑化整備 ☒ 人材育成 ☒ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☒ 広報 ☐ その他		
概要	地域や企業等での花や緑の利活用の推進や若い世代への花への関心を高めることにより、花の都づくりを推進する。		
目標	暮らしの様々な場面で花と緑があふれる「花の都しずおか」を実現するため、花の魅力の発信や花に触れる機会を創出する。		
評価方法	ホームページ閲覧数 (31,000件/年) 花緑出張サービスで実施した花育講座受講者数 (2,400人/年)		
関連する管理指標の有無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・ ホームページや、「ふじのくに花の都しずおか推進協議会」のSNSを活用し、花に関する情報を発信し、花緑への関心を高めた。 ・ 「花と暮らす」をテーマに、Instagramフォトコンテストを開催し、入賞写真を広報することで、花のある暮らしについて魅力を発信した。 ・ 「花の都しずおかアドバイザー」を、地域や学校等が実施する園芸教室等に派遣する「花緑出張サービス」を実施し、多数の児童生徒に花に触れる機会を提供した。 ・ 県内の飲食店等に県産切花や鉢物を飾った様子を各店舗のSNSで発信してもらうことで、日常で花を飾る楽しさを発信した。 ・ 浜名湖花博2024を開催し、花のあるライフスタイルを提案した。			
今後の進め方(令和7年度)			
・ ホームページやSNSを活用した情報発信を継続し、県民の花緑への関心を高めていく。 ・ 花緑出張サービスを実施し、県民が花に触れる機会を創出する。 ・ 集客イベント会場の来場者に、花を花瓶に生け、出来上がったものを家に持ち帰ってもらう「県産花きの楽しみ方体験会」を実施し、花のある生活を体感してもらう。			

評価シート

取組番号	2		
事業・取組名	花の都づくり		
部局名/団体名	経済産業部	担当課	農産振興課
令和6年度事業費	3,900千円		

令和6年度の実績

- ・ホームページにて、花緑出張サービス等の県事業の紹介や、Instagramフォトコンテストの入賞写真の紹介等を行った。
(令和6年度ホームページ閲覧数：13,569件)
- ・「花の都しずおかアドバイザー」を、地域や学校等が実施する園芸教室等に派遣する「花緑出張サービス」を実施した。
(令和6年度実績 花育講座受講者数：2,151人)
- ・県内飲食店等に県産切花や鉢物を飾った様子を、各店舗のSNSで発信する「県産花き魅力発信事業」を実施した。(令和6年度実績 実施店舗数：7軒)
- ・浜名湖ガーデンパークやはままつフラワーパークをメイン会場に、浜名湖花博2024を開催した。(来場者数：1,006,586人)

目標に対する評価

- ・ホームページ閲覧数は昨年度実績(21,589件)に比べ減少し目標に達しなかった。原因として、これまで外部サーバーで公開していたものを県農産振興課ホームページ内に移設したことが考えられる。
- ・「花緑出張サービス」による花育講座の受講者数は目標人数の約90%であり、目標を概ね達成できた。

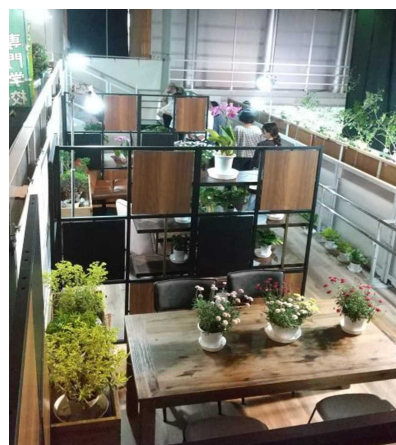
令和7年度取組内容

- ・ホームページやSNSを活用した情報発信を継続し、県民の花緑への関心を高めていく。
- ・花緑出張サービスを実施し、県民が花に触れる機会を創出する。
- ・集客イベント会場の来場者に、花を花瓶に生け、出来上がったものを家に持ち帰ってもらう「県産花きの楽しみ方体験会」を実施し、花のある生活を体感してもらう。

参考(写真・図表等)



花緑出張サービスによる花育講座の様子



浜名湖花博2024ガーデンパーク
会場 屋内展示の様子

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	3		
事 業 ・ 取 組 名	花育活動（寄せ植え）		
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク	担当課	環境ふれあい課
基 本 方 針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基 本 施 策	（１）花と緑のある安らぎの場の拡大		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☒ 人材育成 ☒ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	子どもたちが、自分の手で土や苗を触る体験を通して、緑との関わりや優しい心を育む「花育教室」の開催を支援する。		
目 標	幼稚園等が花育研修を実施することで、子供達が幼少期から花や緑と親しむ機会をつくり、緑化活動の重要性と命の大切さを醸成する。		
評 価 方 法	花育研修を実施する幼稚園・保育園・こども園にアンケート調査を実施することで、事業効果を評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績（平成30年度～令和6年度）			
・ 将来の緑化推進の担い手を育てるために、子供の頃から花や緑と親しみ自らの手で育てる機会をつくる花育教室を幼稚園・保育園等を対象に実施した。 ・ 平成30年度から令和6年度までの累計参加園数は1,484園、累計参加園児数は43,086人である。 ・ コロナ禍により、これまでの集合研修からテキストや説明動画を使ったeラーニング方式に変更した。			
今後の進め方（令和7年度）			
・ 事業として定着し園の恒例行事に成長しているので、これまでのやり方を継続し要望事項がある場合は検討し改善を図る。 ・ 令和3年度から年長のみを対象としたが、年中も対象としたい要望もあるので、本年度は予算の範囲内で年中を対象とする。 ・ 市町により実施する園の数に温度差があるので、市町と連携し実施園の増加を図る。			

評価シート

取 組 番 号	3				
事 業 ・ 取 組 名	花育活動（寄せ植え）				
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク	担当課	環境ふれあい課		
令和 6 年度事業費	6,729千円				
令和 6 年度の実績					
・ 令和 6 年度の参加園数は公立116園、私立154園、合計270園である。 ・ 実施園のアンケート調査では、「花育教室を実施して良かったか」に対し実施園の100%が「良かった」と回答。自由意見として、「植物への興味、関心が高まった」「自分で選んで作ることへの喜びと達成感」などの効果があったと回答している。 ・ 令和 3 年度から年長園児のみを対象とし、育てた寄せ植えは卒園式に飾ったり、その後家庭に持ち帰り育ててもらうことで、園児の緑化意識の高揚と家族の花との触れ合いの機会を創出した。					
目標に対する評価					
・ 花育教室を現在の方式で実施するようになった平成28年度と現在の令和 6 年度を比較してみると、参加園数で329.2%、参加園児数で237.6%と大幅に伸長しており、目標である幼少期から花や緑と親しみ緑化活動の重要性と命の大切さを醸成する機会の創出につながっている。					
令和 7 年度 of 取組内容					
・ 花育教室の実施園を増やすため、市町から幼稚園等にPRするように働きかけるとともに、園庭等芝生化モデル事業の実施先にも引き続きPRする。 ・ 花育教室を指導する先生方を支援するため、花育教室の説明動画とテキストを見直し、より理解しやすい内容に改善する。 ・ 対象園児拡大の検討。（年中児） ・ アンケート調査結果から事業の実施効果や改善点を把握する。					
参考（写真・図表等）					
花育教室					
年度	H30～R3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
参加園数（園）	732	235	247	270	1,484
参加人数（人）	24,330	6,074	6,287	6,395	43,086
  					

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	4		
事 業 ・ 取 組 名	里山学習施設の管理運営及びプログラムの提供		
部 局 名 / 団 体 名	くらし・環境部	担当課	環境ふれあい課
基 本 方 針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基 本 施 策	(1) 花と緑のある安らぎの場の拡大		
取 組 項 目	☒ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	「遊木の森」や、「榛原ふるさとの森」における草刈りや、遊歩道の補修、トイレ修繕等を実施し、安全に利用できる環境を整えるほか、森林や里地・里山への理解促進にもつながる豊かな自然体験が出来るよう、森林環境教育プログラムを提供する。		
目 標	自然ふれあい施設における自然体験プログラムを毎年度180回実施することで、県民が自然と気軽にふれあう機会を創出する。		
評 価 方 法	自然体験プログラムの実施回数の実績により、評価する。		
関 連 す る 管理指標の有無	☒ 有 ☐ 無 自然ふれあい施設(県立森林公園、県民の森)における自然体験プログラム実施回数(毎年度180回)		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
- 施設の維持管理として、草刈り、歩道の補修、トイレ管理、枯れ木の除去、森林の整備、施設の修繕を実施した。 - 幼稚園・保育園、学校等の団体向けに森林環境教育プログラムを提供するとともに、森林環境教育の指導に必要な知識や技術を高めるため、OJT研修を実施した。			
今後の進め方(令和7年度)			
- 利用者の安全確保のため、枯れ木や倒木などの危険木の除去及び劣化した木造施設について、更新を行う。 - 定期的に除伐等を行い、里山林の環境を維持していく。 - 施設の特徴を生かし、利用者ニーズを反映させた施設整備を行う。 - 学校教育の枠組みを理解した小学生向けプログラムの開発などにより、ライフスタイルに応じた森林環境教育の機会を提供していく。 - 市町の森林環境教育に対する理解促進を図るため、市町職員向けの研修を開催する。			

評価シート

取組番号	4		
事業・取組名	里山学習施設の管理運営及びプログラムの提供		
部局名/団体名	くらし・環境部	担当課	環境ふれあい課
令和6年度事業費	7,159千円		
令和6年度の実績			
・自然ふれあい施設は設置から40年近く経過し老朽化が進んだ施設が多く、安全確保や利用者ニーズを考慮して計画的に施設の修繕及び更新を行っており、令和6年度は施設の適正な管理と運営を行うため、県立森林公園の屋外ステージの修繕、県民の森の老朽化した旧管理棟の撤去等を行った。 ・森林環境教育指導者養成講座修了生や環境学習指導員等、一定の知識、技能を有する指導者等の活用を促進するため、人材バンクに登録し、静岡県環境学習ポータルサイトで公開した。			
目標に対する評価			
・「自然ふれあい施設における自然体験プログラム実施回数」は、指定管理者と連携した新たなプログラムの実施や、SNS活用による情報発信の強化等に取り組んだ結果、概ね目標を達成した。 管理指標：自然ふれあい施設における自然体験プログラム実施回数 令和6年度実績178回（達成率98.9%）			
令和7年度取組内容			
・自然ふれあい施設の指定管理者と連携し、SNS等を活用したイベント情報の発信や、より広域の学校に対する自然体験プログラムへの参加の働きかけ等により、新たな利用者を獲得する。 ・市町職員向けの森林環境教育OJT研修等を開催するとともに、地域の森林環境教育指導者に講師を務めてもらうなど、指導者の活用を含めた支援に取り組む。			
参考（写真・図表等）			
			
森林環境教育指導者養成講座			

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	6		
事 業 ・ 取 組 名	しずおか棚田・里地くらぶ		
部 局 名 / 団 体 名	経済産業部	担当課	農地保全課
基 本 方 針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基 本 施 策	(1) 花と緑のある安らぎの場の拡大		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☒ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☒ 広報 ☐ その他		
概 要	農業者の高齢化と後継者不足から棚田・里地の保全管理が困難になっている地域にボランティアやアドバイザーを派遣し、棚田・里地の維持・管理を目的とした保全活動、活性化及び組織の支援を行う。		
目 標	しずおか棚田・里地くらぶによる棚田保全に係る意識啓発や、活動への参画を促す取組みにより各棚田保全活動への支援の輪を広げ、「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」全体の参画者数として、毎年度2,400人増を目指す。		
評 価 方 法	しずおか棚田・里地くらぶの活動を含め、管理指標である「ふじのくに美しく品格のある邑づくりの参画者数」により評価する。		
関 連 す る 管理指標の有無	☒有 ☐無 ふじのくに美しく品格のある邑づくりの参画者数 (87,600人(2025/R7))		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・ 棚田の魅力を伝え、棚田への訪問を促す広報ツールとして「棚田カード」を作成・配布する全国棚田カード作成事業に参加し、棚田カードを棚田保全活動等のイベント時に配布することにより、参加者の増加を図った。 ・ また、この棚田カードを収納するカードホルダーを作成した。今後、棚田活動に貢献した人への配布を行うなど、参画者の増加に繋がるよう活用していく。			
今後の進め方(令和7年度)			
・ 県広報誌や、県ホームページ、また他部局のイベント等でのチラシやポスターの配架などを積極的に利用し、広く県民に棚田保全活動の必要性や重要性、及び「しずおか棚田・里地くらぶ」の活動内容と呼びかける。 ・ 「つなぐ棚田遺産」に認定された棚田が将来にわたって活動を継続するため、支援を継続し、さらなる参画者の増加を図る。			

評価シート

取 組 番 号	6		
事 業・取 組 名	しずおか棚田・里地くらぶ		
部 局 名 / 団 体 名	経済産業部	担当課	農地保全課
令和6年度事業費	10,318千円		
令和6年度の実績			
・しずおか棚田・里地くらぶ公式ウェブサイトやFacebook、ニュースレター等を通じて、広く活動ボランティアを募り、棚田保全活動参加者の増加を図った。 (R6: 棚田保全活動参加者 1,310人) ・棚田の注目度を高め新たな活動参加者の増加につながるよう、静岡県公式メタバース空間にて「つなぐ棚田遺産」のパネル展示を実施、エコプロ2024において日本の棚田共同展示を行った。 ・棚田活動等へ大学生等の若年層の参加を促すため、農作業や地域イベントの取組に係る経費を支援した。			
目標に対する評価			
・各棚田において、学生・企業等の多様な主体との連携を支援した結果、活動参加者が増加した。 管理指標：ふじのくに美しく品格のある邑づくりの参画者数 令和6年度実績 85,767人（達成率97.9%）			
令和7年度の取組内容			
・つなぐ棚田遺産に認定されたことから、気運醸成を高め、活動参加者数の増加を図る。 【認定棚田】 石部（松崎町）・茅野（伊豆市）・荒原（伊豆市）・北山（沼津市）・平成（富士宮市）・千櫃（菊川市）・大栗安（浜松市）・久留女木（浜松市）・白櫃（浜松市）			
参考（写真・図表等）			
			
静岡県公式メタバース空間		学生の棚田活動を支援（田植）	

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	7		
事 業・取 組 名	ふじのくに色彩・デザイン指針		
部 局 名 / 団 体 名	交通基盤部	担当課	景観まちづくり課
基 本 方 針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基 本 施 策	(1) 花と緑のある安らぎの場の拡大		
取 組 項 目	☒ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	公共施設の整備に際して、ふじのくに色彩・デザイン指針に基づき、景観に配慮した美しい緑化のデザインに努める。		
目 標	高質な公共空間を形成するため、ふじのくに色彩・デザイン指針に基づく公共施設整備を推進する。		
評 価 方 法	高質な公共空間の形成に資する研修会への参加市町数により評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・平成30年度に、国の道路デザイン指針の改定、ふじのくに景観形成計画の策定等を踏まえ、「ふじのくに色彩・デザイン指針」を改定し第4版とした。 ・景観担当者説明会や土木技術職員研修等様々な機会を捉え、県及び市町職員に向けて、「ふじのくに色彩・デザイン指針」の説明会や研修会を行った。 ・県が施工する公共事業のうち、景観に与える影響が大きいものについて、景観の専門家による景観検討を実施し、高質な公共空間の形成及び職員の技術力向上を図った。			
今後の進め方(令和7年度)			
・引き続き「ふじのくに色彩・デザイン指針」の説明会や研修の開催、景観の専門家による景観検討の実施を通じて、職員の景観形成に対する意識を啓発するとともに、運用の徹底を図り、高質な公共空間を形成していく。			

評価シート

取 組 番 号	7		
事業・取組名	ふじのくに色彩・デザイン指針		
部局名/団体名	交通基盤部	担当課	景観まちづくり課
令和6年度事業費	— 千円		
令和6年度の実績			
・年度当初に土木職員を対象とした技術研修において、公共事業における景観配慮の指針や検討体制について周知した。（受講者数8回264名） ・建設技術監理センターで開催した土木技術職員研修「景観形成と環境創出研修」（基礎編・演習編）の基礎編では、ふじのくに色彩・デザイン指針の内容及び実践例について講義した。（基礎編受講者数27名） ・県が施工する公共事業のうち、景観に与える影響が大きいものについて、景観の専門家による景観検討を行った。（沼津東高等学校など13件）			
目標に対する評価			
・高質な公共空間の形成に資する研修の参加市町数は34市町であり、「ふじのくに色彩・デザイン指針」に対する理解を深め、指針に基づく公共施設整備を推進した。			
令和7年度の取組内容			
・様々な機会を捉え、県及び市町職員に向けて「ふじのくに色彩・デザイン指針」の説明会や研修を行い、職員の景観形成に対する意識を啓発する。 ・景観の専門家による景観検討を実施し、高質な公共空間の形成及び職員の技術力向上を図る。			
参考（写真・図表等）			
			
令和6年度に開催した景観形成と環境創出研修（基礎編）の様子			

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	8-1		
事 業・取 組 名	豊かな暮らし空間創生		
部 局 名 / 団 体 名	くらし・環境部	担当課	住まいづくり課
基 本 方 針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基 本 施 策	(1) 花と緑のある安らぎの場の拡大		
取 組 項 目	☒ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☒ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	生活と自然が調和した住まいづくり・まちづくりの普及や地域コミュニティの形成、景観に配慮した豊かな住環境を整備することにより、快適な暮らし空間の実現を図る。		
目 標	一定の基準に達した住宅地を「豊かな暮らし空間創生住宅地」として認定しているため、この認定区画数の増加を本取組の目標とする。		
評 価 方 法	現在の認定区画数は379区画であり、令和7年度までに600区画を目指し評価する。		
関 連 す る 管理指標の有無	☒ 有 ☐ 無 豊かな暮らし空間創生住宅地の区画数（累計600区画（2025/R7））		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・「豊かな暮らし空間」を実現した住宅地の普及・啓発に向け、県民や住宅関連事業者等への情報発信及び住宅地の宅地造成計画等に関するアドバイザーの派遣や研修会の開催等を実施し、認定区画数は平成30年度～令和6年度末で140区画増加した。			
今後の進め方(令和7年度)			
・コロナ禍を経て、都心から地方への移住者の増加や2地域居住などの新たな働き方・住まい方が見直されていることから、都心からのアクセスの利便性等立地条件が良い当県における優位性を活かし、静岡らしい自然豊かでゆとりある職住一体の住まいを事業者提案するなど、認定住宅地の普及を図っていく。			

評価シート

取組番号	8-1		
事業・取組名	豊かな暮らし空間創生		
部局名/団体名	くらし・環境部	担当課	住まいづくり課
令和6年度事業費	— 千円		

令和6年度の実績

- ・ 静岡文化芸術大学、建築コンサルタント及び県による検討会を5回開催し、「静岡らしい住まい方」について意見交換を実施した。

目標に対する評価

- ・ 令和6年度における認定はなかったが、ここ数年、認定区画数は増加していることから、事業は着実に進んでいると言える。

管理指標：豊かな暮らし空間創生住宅地の区画数
令和6年度実績 累計379区画（達成率63.2%）

令和7年度の取組内容

- ・ 「豊かな暮らし空間創生住宅地」の普及・啓発のため、県ホームページを改修し、認定を受けた住宅地の写真等の掲載、PRを行う。

参考（写真・図表等）



静岡文化芸術大学、建築コンサルタント及び県による検討会

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	8-2		
事 業 ・ 取 組 名	安全で美しいいえなみ整備		
部 局 名 / 団 体 名	くらし・環境部	担当課	住まいづくり課
基 本 方 針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基 本 施 策	(1) 花と緑のある安らぎの場の拡大		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	既成の住宅地における道路に面する部分において、植栽を基調とした緑のいえなみを推進し、安全で美しいいえなみへ誘導する。		
目 標	美しいいえなみの形成のために市町が補助する場合に県が市町に対して助成しているため、この制度を創設した市町数の増加を本取組の目標とする。		
評 価 方 法	令和7年度までに18市町を目指し評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
令和元年度に制度を開始し、市町に対して補助制度創設を働きかけるとともに、事例集等を用いた意識醸成、情報発信を行い、令和6年度末までに5市町で制度の整備が完了した。			
今後の進め方(令和7年度)			
引き続き、補助制度を整備していない市町に対して、制度創設を働きかけるとともに、事例集等を用いた意識醸成、情報発信に努める。			

評価シート

取 組 番 号	8-2			
事 業 ・ 取 組 名	安全で美しいいえなみ整備			
部 局 名 / 団 体 名	くらし・環境部	担当課	住まいづくり課	
令和 6 年度事業費	498千円			
令和 6 年度の実績				
・ 助成実績：10件（富士宮市、富士市、藤枝市、袋井市） ・ 市町景観担当者会議を通じて事業の説明を実施した。				
目標に対する評価				
・ 令和 6 年度に新たに補助制度を創設した市町は無かったが、ここ数年、助成件数は増加していることから、事業は着実に進んでいると言える。				
令和 7 年度 of 取組内容				
・ 補助制度未整備の市町に対して継続して制度創設を働きかける。 ・ 関連するイベント等で「美しいいえなみ」のPRを行う。				
参考（写真・図表等）				
年度別の補助実績				
令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1 件	3 件	13件	11件	10件
富士宮市	東伊豆町 富士宮市 富士市	富士宮市 富士市 藤枝市 袋井市	富士宮市 富士市 藤枝市 袋井市	富士宮市 富士市 藤枝市 袋井市
				
補助箇所				

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	9		
事 業 ・ 取 組 名	芝生地の普及支援、管理支援		
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク	担当課	環境ふれあい課
基 本 方 針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基 本 施 策	(2) 芝と親しみ、スポーツを楽しむ機会の増大		
取 組 項 目	☒ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	園庭・校庭や運動公園への芝生の導入を推進するとともに、既存の芝生地の維持に対する支援を行う。		
目 標	普及支援は園庭等芝生化モデル事業、管理支援は芝生管理活動支援事業を毎年度30団体を継続的に実施することにより支援する。		
評 価 方 法	普及支援は既に管理指標はある。管理支援は芝生管理活動支援事業を実施した団体数で評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☒ 有 ☐ 無 芝生文化創造プロジェクトで芝生化した園庭・校庭数（96箇所（2025/R7）） 複数の園庭・校庭に芝生を導入している市町数（35市町（2025/R7）） 地域の緑化活動団体数（累計300団体（2025/R7））		
これまでの実績（平成30年度～令和6年度）			
○園庭等芝生化モデル事業 - 県内のこども園・学校等の園庭や校庭、地域の公園・スポーツ広場などの芝生化を住民参加で実施するための資材や管理備品などの購入経費を支援した。 - 平成30年度から令和6年度までの累計支援箇所数は、43箇所である。 ○芝生管理活動支援事業 - 県内のボランティア団体が芝生地の維持管理のための資材や管理備品などの購入経費を支援した。 - 平成30年度から令和6年度までの累計支援箇所数は、211箇所である。			
今後の進め方（令和7年度）			
○園庭等芝生化モデル事業 - こども園・学校等の芝生化のニーズは高いので、同事業の普及啓発活動を積極的に行うとともに、予算を充実させ多くのニーズに対応できるようにする。 - 芝生の植栽は多くの人手が必要となるため、企業や学生ボランティアなどを活用する。 ○芝生管理活動支援事業 - 園庭・校庭や大規模な芝生地の維持管理はボランティアの負担が大きいため、ロボット芝刈機などハイテク機器の導入を進める。 - スポットの課題解決のための専門家による相談体制を充実させる。			

評価シート

取 組 番 号	9														
事 業 ・ 取 組 名	芝生地の普及支援、管理支援														
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク	担当課	環境ふれあい課												
令和 6 年度事業費	12,045千円														
令和 6 年度の実績															
○園庭等芝生化モデル事業 ・ こども園等の園庭 6 箇所1,139㎡の芝生化を支援した。 ○芝生管理活動支援事業 ・ 県内27箇所のボランティア団体が管理する芝生地に必要な芝生資材や機材の購入経費を支援した。															
目標に対する評価															
○園庭等芝生化モデル事業 ・ 芝生化した園庭・校庭数 実績R6:86箇所（達成率:89.6%） ・ 園庭に芝生を導入した市町 実績R6:19市町（達成率:54.3%） ○芝生管理活動支援事業 ・ 地域の緑化活動団体数 実績R6:294団体（達成率:98%）															
令和 7 年度の取組内容															
○園庭等芝生化モデル事業 ・ 令和 7 年度は、こども園等 6 箇所の芝生化を支援する。 ・ 園庭に芝生化を導入していない市町へのアプローチを強化する。 ○芝生管理活動支援事業 ・ ハイテク機器であるロボット芝刈機や乗用芝刈機の導入を推奨する。															
参考（写真・図表等）															
○園庭等芝生化モデル事業 （単位：箇所） <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>H24～R3年度</th><th>令和 4 年度</th><th>令和 5 年度</th><th>令和 6 年度</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支援実績</td><td>69</td><td>7</td><td>2</td><td>8</td><td>86</td></tr> </tbody> </table>				年度	H24～R3年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	合計	支援実績	69	7	2	8	86
年度	H24～R3年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	合計										
支援実績	69	7	2	8	86										
															

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	10		
事 業 ・ 取 組 名	芝生アドバイザーの育成・活用		
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク、芝草研究所	担当課	環境ふれあい課
基 本 方 針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基 本 施 策	(2) 芝と親しみ、スポーツを楽しむ機会の増大		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☒ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	芝生の知識を持った専門家を育成するとともに、芝生の専門家を各地域に派遣し、芝生の適切な維持管理を支援する。		
目 標	芝生の適切な維持管理を支援する。		
評 価 方 法	芝生に関する講座の修了者数を集計するとともに、受講生や専門家の派遣を受けた園、施設等にアンケートを行うことで事業の効果を評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☒ 有 ☐ 無 芝生文化創造プロジェクトで芝生化した園庭・校庭数 (96箇所 (2025/R7)) 複数の園庭・校庭に芝生を導入している市町数 (35市町 (2025/R7)) 地域の緑化活動団体数 (累計300団体 (2025/R7))		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・ 芝草研究所による技術支援及びグリーンバンクによる補助事業により、平成30年から令和6年度にかけて58箇所52,751㎡を芝生化した。 ・ 1日の講座で芝生管理の基礎知識を習得できる芝生教室及び3日間の講座で芝生管理の専門的な知識を習得できる芝草管理講座を開催し、芝生の知識を持った専門家を育成した。			
今後の進め方(令和7年度)			
・ 県内の芝生地拡大を促進するため、芝草研究所の研究・普及活動や公益財団法人静岡県グリーンバンクの芝生普及促進支援、芝生化のメリットや具体的な工程を示した動画の活用や芝生相談会・見学会の開催などによる、芝生に関心を持つ県民から芝生化を推進するボランティア人材の掘り起こしに引き続き取り組む。			

評価シート

取 組 番 号	10		
事 業 ・ 取 組 名	芝生アドバイザーの育成・活用		
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク、芝草研究所	担当課	環境ふれあい課
令和6年度事業費	1,163千円		

令和6年度の実績

- ・ 芝生教室開催（1日コース）（静岡県グリーンバンク）
参加者：56人（東部16人、中部20人、西部20人）
講 師：NPO法人グラウンドキーパーズ理事長 佐野 忍
研修内容：芝生化及び維持管理手法と管理機具に関する基礎知識の習得
- ・ 芝草管理講座（3日コース）（芝草研究所）
参加者：21人（修了者14人）
講 師：静岡県芝草研究所 研究主幹 池村 嘉晃
研修内容：芝生化及び維持管理に必要な専門知識の習得
- ・ 芝生アドバイザー活用
芝生化実施施設の要請に基づき、芝生化指導及び維持管理に関する現場指導などの指導を行った。（91回）

目標に対する評価

- ・ 令和6年度に開催した芝生教室の参加者アンケートでは、参加者の93%が「良かった」と回答し、自由意見でも「聞きたいことが何でも相談できた」「豊富な知識で細かいことまで分かりやすかった」等の声が寄せられ、好評を得た。
- ・ 芝生アドバイザー活用では、園庭の芝生維持管理に対して適切な助言と指導を行うことで、防塵効果、高温化対策、安全性と景観向上などが図られたなど、施設管理者等から喜びの声が寄せられた。

令和7年度の取組内容

- ・ 引き続き、芝生教室及び芝草管理講座を開催するとともに、専門家による芝生化指導や維持管理に関する現場指導、管理機具のメンテナンス指導を行い、県内の芝生地拡大促進を行う。

参考（写真・図表等）



芝生教室

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	11		
事 業 ・ 取 組 名	用途に応じた芝生の開発		
部 局 名 / 団 体 名	芝草研究所	担当課	環境ふれあい課
基 本 方 針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基 本 施 策	(2) 芝と親しみ、スポーツを楽しむ機会の増大		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☐ 広報 ☒ その他		
概 要	身近で使いやすい芝生地拡大のため、スポーツでの使用に耐えるものや日陰でも育成しやすいもの、長い期間常緑性を維持するものなど、用途に応じた芝種の選定を行い、用途に応じた管理手法を確立する。		
目 標	芝種の選定や管理手法を確立することにより、身近で使いやすい芝生を普及する。		
評 価 方 法	芝草研究所及び静岡県グリーンバンクによる芝生化実績件数により、事業の効果を評価する。		
関 連 す る 管理指標の有無	☒ 有 ☐ 無 芝生文化創造プロジェクトで芝生化した園庭・校庭数 (96箇所 (2025/R7))		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・園庭・校庭に適した芝種（バミューダグラス）、施工方法（ポット苗方式）を選定した。 ・日陰に強い芝種として、セントオーガスティングラスを選定した。 ・幼稚園、学校、公園等の芝生化を支援した。（28箇所、50,353㎡（H25～R6）） ・静岡県グリーンバンクとの共催により、芝草管理講座を開催した。（修了者数251人（H25～R6）） ・「バミューダグラスによる園庭・校庭の芝生管理マニュアル」「セントオーガスティングラスによる芝生管理マニュアル」を作成し、グリーンバンク実施の芝生化支援事業や人材育成事業で活用した。 ・ロボット芝刈機の試験導入を行い、芝刈り作業の省力化について検証した。			
今後の進め方(令和7年度)			
・これまでの研究成果である2種類の芝生管理マニュアル等を活用しながら、更なる芝生の普及と、持続可能な芝生管理に不可欠な人材育成に取り組む。			

評価シート

取 組 番 号	11		
事 業・取 組 名	用途に応じた芝生の開発		
部 局 名 / 団 体 名	芝草研究所	担当課	環境ふれあい課
令和 6 年度事業費	5,891千円		
令和 6 年度の実績			
・簡易気象観測機の活用や、維持管理の省力化の研究を進めた。 ・ブルミューダグラス（寒地型芝草のケンタッキーブルーグラスとバミューダグラスとを混植させて常緑を維持する方法）に関する研究を行った。 ・温室効果ガスである一酸化二窒素の発生量を削減するため、石灰窒素を芝生管理に利用する調査を行い、日本芝草学会2024年度春季大会で発表した。			
目標に対する評価			
・芝生文化創造プロジェクトが開始された平成24年度から令和 6 年度までに、芝草研究所の技術支援により28箇所50,353㎡、グリーンバンクの補助事業により89箇所52,459㎡の芝生化を実施しており、確実に県内の芝生地が拡大している。 管理指標：芝生文化創造プロジェクトで芝生化した園庭・校庭数 令和 6 年度実績 86箇所（達成率89.6%）			
令和 7 年度の取組内容			
・ふるさと納税を活用したクラウドファンディング（募集期間 6 月13日～ 9 月11日、目標金額1,000千円）を実施し、外部資金の確保に努める。 ・散水方法の違いによる水温変化に関する調査と、ブルミューダグラスに関する研究を継続する。 ・散水のタイミングや水量の判断を的確に行うため、低価格で扱いやすい簡易気象観測機に係る研究を進め、その研究成果等を2025国際芝草学会（軽井沢）で発表する。 ・現在取り組んでいる芝生文化創造プロジェクト第 3 期が令和 7 年度で区切りを迎えるため、これまでのプロジェクトの成果を検証すると共に、今後の進め方を検討する。			
参考（写真・図表等）			
 芝草管理講座（実習）		 クラウドファンディングのチラシ	

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	12		
事 業・取 組 名	工場緑化セミナー・緑化優良工場等表彰		
部 局 名 / 団 体 名	経済産業部	担当課	企業立地推進課
基 本 方 針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基 本 施 策	(2) 芝と親しみ、スポーツを楽しむ機会の増大		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☒ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	工場緑化への意識向上と県全体で質の高い工場緑化の実現を図るため、工場緑化セミナーを開催する。		
目 標	工場緑化への意識向上と県全体で質の高い工場緑化の実現を図るとともに、緑化優良工場等表彰へ推薦できる工場の確保につなげる。		
評 価 方 法	工場緑化セミナー後、アンケートを実施し、参加者が本県の工場緑化に係る理念を理解できたかを評価する。 また、緑化優良工場としての受賞件数で評価を行う。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☒ 有 ☐ 無 緑化優良工場としての受賞件数（累計80件（2025/R7））		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
- 令和元年度までは、「ふじのくに産業見学会」の一部として「工場緑化セミナー」を市町と協働で開催し、緑化優良工場等表彰の受賞工場の中でも先進的な取り組みを行っている工場を視察した。このことにより、参加市町及び企業の工場緑化への意識向上につながっていたが、令和2～6年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により、中止とした。 - 各市町及び企業に対し、工場立地法の制定経緯等を踏まえた運用を行うよう適宜助言することで、緑化優良工場等表彰(平成30年度～令和6年度)において、経済産業大臣賞3件、関東経済産業局長賞7件、日本緑化センター会長（奨励）賞12件の計22件の受賞につながっている。			
今後の進め方(令和7年度)			
意欲的に工場緑化に取り組んでいる工場に対し、市町と連携して緑化優良工場等表彰への推薦を積極的に行っていく。			

評価シート

取 組 番 号	12		
事 業・取 組 名	工場緑化セミナー・緑化優良工場等表彰		
部 局 名 / 団 体 名	経済産業部	担当課	企業立地推進課
令和6年度事業費	— 千円		
令和6年度の実績			
・各市町及び企業に対し、工場立地法の制定経緯等を踏まえた運用を行うよう適宜助言することで、緑化優良工場等表彰において、関東経済産業局長賞1件、日本緑化センター会長賞2件の計3件の受賞につながった。			
目標に対する評価			
・工場緑化セミナーについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により中止としたため、アンケート調査が未実施であり、評価不能である。 ・緑化優良工場としての受賞件数は、令和6年度末時点で累計98件となり、着実に受賞件数を増やしている。 管理指標：緑化優良工場としての受賞件数 令和6年度実績 累計98件（達成率122.5%）			
令和7年度の取組内容			
・意欲的に工場緑化に取り組んでいる工場を緑化優良工場等表彰へ推薦予定である。企業・市町と連携し、受賞に向け対応していく。			
参考（写真・図表等）			
  関東経済産業局長賞を受賞した(株)日立ハイテクサイエンス富士小山事業所			

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	13		
事 業 ・ 取 組 名	県営都市公園の指定管理による芝生の良好な維持		
部 局 名 / 団 体 名	交通基盤部	担当課	公園緑地課
基 本 方 針	1 花と緑を慈しむ文化の創造		
基 本 施 策	(2) 芝と親しみ、スポーツを楽しむ機会の増大		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	県営都市公園内の多目的競技場等運動施設における芝生の維持管理を指定管理者が定期的に行うことにより、常に芝生を良好な状態に保ち、運動施設の快適な利用を促進し芝生自体の長寿命化を図っている。		
目 標	公園内の施設毎に気候の変化や芝の状態等を考慮した維持管理を継続して実施することで、施設利用にあたって快適な状態を維持する。また、適正な時期に芝の張替えを行い、常に良好な状態を保つ。		
評 価 方 法	芝刈の回数など維持管理に関する年間計画を立て、達成状況により評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
公園内の施設毎に気候の変化や芝の状態等を考慮し、芝刈り、散水、施肥、抜取除草、薬剤散布などを実施することで、良好な状態で施設を貸出しすることができた。また、適正な時期に芝の張替えを行うことで、常に良好な状態を維持できた。			
今後の進め方(令和7年度)			
公園内の施設毎に気候の変化や芝の状態等を考慮した維持管理(芝刈り、散水、施肥、抜取除草、薬剤散布など)を継続して実施することで、施設利用にあたって快適な状態を維持する。また、適正な時期に芝の張替えを行い、常に良好な状態を保つことで、利用者が快適に利用できる施設を目指す。			

評価シート

取 組 番 号	13		
事 業 ・ 取 組 名	県営都市公園の指定管理による芝生の良好な維持		
部 局 名 / 団 体 名	交通基盤部	担当課	公園緑地課
令和 6 年度事業費	— 千円		
令和 6 年度の実績			
(愛鷹広域公園) 芝刈265回/年、散水60回/年、施肥70回/年、抜取除草20回/年、薬剤散布15回/年など (草薙総合運動場) ・陸上競技場 芝刈11回/年、散水15回/年、施肥3回/年、抜取除草3回/年、薬剤散布3回/年 ・球技場 芝刈50回/年、散水38回/年、施肥10回/年、抜取除草12回/年、薬剤散布 7回/年 (小笠山総合運動公園) ・スタジアム 芝刈125回/年、散水90回/年、施肥50回/年、抜取除草15回/年、薬剤散布5回/年など ・芝生グラウンド 芝刈125回/年、散水90回/年、施肥30回/年、抜取除草15回/年、薬剤散布10回/年など			
目標に対する評価			
・ いずれの公園においても、年間計画を目安に以下のとおり、実態に応じた維持管理を実施することができた。 ・ (愛鷹広域公園) 芝生の傷んでいる箇所は目砂、施肥、散水をし、成長を促した。 ・ (草薙総合運動場) エアレーション、バーチカルカット等を行い芝生の根の伸長を促した。 ・ (小笠山総合運動公園) 芝生の排水が悪い施設はエアレーションの回数を増やし、排水性を向上する事ができた。			
令和 7 年度の取組内容			
・ 引き続き、年間計画を目安に気候や芝の状態に応じた維持管理を実施することで、良好な状態を保ち、利用者が快適に利用できる施設を目指す。			
参考 (写真・図表等)			
 工事名 草薙総合運動場芝生管理 工 種 芝刈工 測 点 スタジアム バーチカルカット工 作業状況 小笠山総合運動公園		 草薙総合運動場	

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	14		
事 業 ・ 取 組 名	花と緑のおもてなし空間整備支援		
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク	担当課	環境ふれあい課
基 本 方 針	2 花と緑による地域の魅力向上		
基 本 施 策	(3) 花と緑によるおもてなし空間の創造		
取 組 項 目	☒ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	多くの人々が行き交う駅前や観光地などに、地域らしさが光る「花と緑のおもてなし空間」を創造するため、おもてなし空間を整備する市町等に対して支援を行う。		
目 標	おもてなし空間整備で整備したおもてなし空間は、緑化グループ支援事業を活用し、地域のボランティア団体が継続的に管理ができるように支援する。		
評 価 方 法	整備したおもてなし空間の維持管理状況により評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・平成30年度から令和3年度までに、5市町8箇所で新たな整備が実施され、特に小山町に整備されたオリンピック・自転車ロードコース沿いの花壇では、新型コロナウイルス感染症の影響により沿道での観戦自粛が求められる中、参加選手を歓迎する気持ちを届けるため、多くの地域住民が花壇整備に参加した。令和4年度からは、地域の顔となるランドマーク花壇の整備を支援した。			
今後の進め方(令和7年度)			
・東京オリンピック・パラリンピックで築いた花によるおもてなしの機運(レガシーとしての花壇)を後世に引き継ぐため、新たに県内全市町に地域の特色を生かし、人の交流にもつながるランドマーク花壇を整備・管理する支援を行う。			

評価シート

取 組 番 号	14		
事 業 ・ 取 組 名	花と緑のおもてなし空間整備支援		
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク	担当課	環境ふれあい課
令和 6 年度事業費	918千円		
令和 6 年度の実績			
令和 6 年度は、掛川城天守閣開門30周年を迎えた掛川城入口の花壇や松崎町の道の駅に松崎町のシンボルであるなまこ壁をモニュメントにした花壇、牧之原市にある榛原文化センター前に写真スポットとして楽しめる花壇を整備する等、地域の特色を生かし、人の交流にもつながるランドマーク花壇3箇所の整備にかかる経費を補助した。			
目標に対する評価			
- これまでに整備したおもてなし空間の花壇等は地域に受け継がれ、地元の緑化ボランティアの手により維持管理が続けられている。 - 令和 6 年度に整備したランドマーク花壇は、観光客におもてなしの気持ちを表し、また地域の賑わいづくりを担う存在となっている。			
令和 7 年度 of 取組内容			
藤枝市、浜松市などで新たにランドマーク花壇を整備する団体を支援する。			
参考（写真・図表等）			
			
掛川市		松崎町	

緑化推進計画 事業個票

取組番号	15-1		
事業・取組名	公共施設の緑化（県庁本庁舎）		
部局名/団体名	財務部	担当課	総務課
基本方針	2 花と緑による地域の魅力向上		
基本施策	（3）花と緑によるおもてなし空間の創造		
取組項目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☐ 広報 ☒ その他		
概要	・ 県立の農業高等学校や農林環境専門職大学の生徒が授業にて栽培した花プランターを県庁本館（正面側）の窓辺に設置する。 ・ 本庁舎内に花等を設置し、来庁者への「おもてなし」を実施する。		
目標	農業高校・農林環境専門職大学と連携し、季節感のある庁舎の演出を図る。		
評価方法	年度末に一括して評価する		
関連する管理指標の有無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績（平成30年度～令和6年度）			
・ 窓辺の花（年5回）※本館2～4階の執務室窓辺の花 ・ 福祉の花（年8回）※本館前階段とその脇のプランター ・ 本館（2階総合案内横）寄せ植え（年5回）			
今後の進め方（令和7年度）			
・ 令和7年度についてもこれまでと同様に実施する。			

取 組 番 号	15-1		
事 業 ・ 取 組 名	公共施設の緑化（県庁本庁舎）		
部 局 名 / 団 体 名	財 務 部	担 当 課	総務課
令 和 6 年 度 事 業 費	2,082千円		
令和6年度の実績			

- ### 目標に対する評価

- ## 令和7年度の取組内容

- 参考（写真・図表等）



33

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	15-2		
事 業 ・ 取 組 名	公共施設の緑化（県立美術館、地球環境史ミュージアム、グランシップ、舞台芸術公園）		
部 局 名 / 団 体 名	スポーツ・文化観光部	担当課	文化政策課
基 本 方 針	2 花と緑による地域の魅力向上		
基 本 施 策	（3）花と緑によるおもてなし空間の創造		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	県立美術館、地球環境史ミュージアム、グランシップ、舞台芸術公園における草木、緑地等の維持管理		
目 標	草木等の維持管理を行い、良好な緑化環境を維持する。		
評 価 方 法	利用者アンケートの満足度により評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績（平成30年度～令和6年度）			
・ 県立美術館等の施設において、県の文化施設として訪れる方々に快適な空間を提供するよう、草木等の維持管理を行ってきた。			
今後の進め方（令和7年度）			
・ 今後も継続して、草木等の維持管理を行っていく。			

評価シート

取 組 番 号	15-2		
事 業・取 組 名	公共施設の緑化（県立美術館、地球環境史ミュージアム、グランシップ、舞台芸術公園）		
部 局 名 / 団 体 名	スポーツ・文化観光部	担当課	文化政策課
令和 6 年度事業費	38,069千円		

令和 6 年度の実績

- ・施設を訪れる方々に快適な空間を提供できるよう、各施設において樹木の剪定、芝生の管理、草刈り等を計画的に実施した。

目標に対する評価

- ・植栽管理等を行った結果、利用者から「緑に囲まれて自然豊かで良い」等の声が寄せられ、良好な緑化環境を維持することができた。

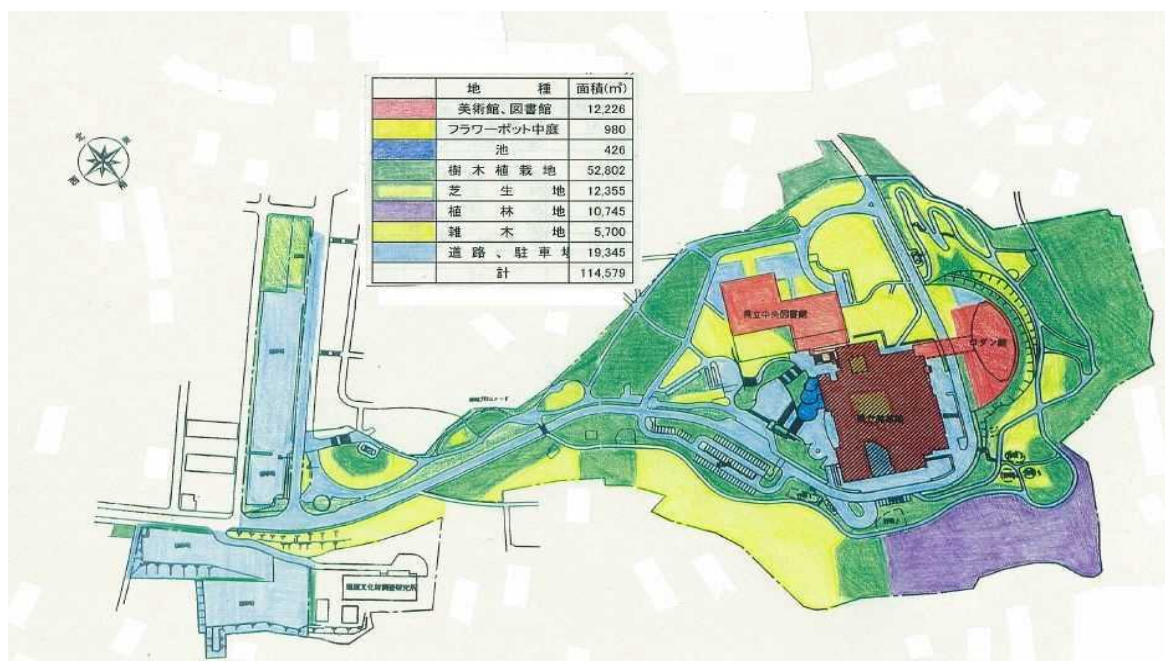
令和 7 年度の取組内容

- ・今後も継続して、草木等の維持管理を行っていく。

参考（写真・図表等）

令和 6 年度県立美術館年間作業表

樹木植栽地 及び中庭	樹木手入れ	4 月上旬～3 月下旬
	基本剪定	1 月上旬～2 月下旬
	除草	4 月中旬～11 月下旬
	刈込み	5 月中旬～6 月上旬
	施肥	8 月下旬～9 月中旬（1 回）
芝 生	刈込み	6 月上旬～6 月下旬（1 回） 8 月上旬～8 月下旬（1 回） 12 月上旬～12 月下旬（1 回）
雑木地及び その他地	下草刈り	5 月上旬～10 月下旬
	除草	5 月上旬～11 月下旬



緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	15-3		
事 業・取 組 名	公共施設の緑化（日本平夢テラス）		
部 局 名 / 団 体 名	スポーツ・文化観光部	担当課	観光政策課
基 本 方 針	2 花と緑による地域の魅力向上		
基 本 施 策	（3）花と緑によるおもてなし空間の創造		
取 組 項 目	☒ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	日本平夢テラス（前庭）の整備		
目 標	草木等の適切な維持管理を行っていく。		
評 価 方 法	来館者の庭の緑化に関する意見により評価する。 （1階インフォメーションに常設）		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績（平成30年度～令和6年度）			
・日本平山頂シンボル施設（日本平夢テラス）の前庭等において、国内外からの観光客を美しい景観でお迎えし、快適に散策してもらえよう、樹木や草花等の維持管理を行った。			
今後の進め方（令和7年度）			
・引き続き、前庭等の維持管理を行うことで、良好な景観の形成と保全に取り組み、施設の魅力を高めていく。			

評価シート

取 組 番 号	15-3		
事 業 ・ 取 組 名	公共施設の緑化（日本平夢テラス）		
部 局 名 / 団 体 名	スポーツ・文化観光部	担当課	観光政策課
令和6年度事業費	5,374千円		
令和6年度の実績			
・ 日本平山頂シンボル施設（日本平夢テラス）の前庭等について、国内外からの観光客を美しい景観でお迎えし、快適に散策してもらえよう、樹木や草花等の維持管理を行った。			
目標に対する評価			
・ 来館した学校団体を対象に実施したアンケートでは、施設について「大変良かった」と回答した団体が85%であり、良好な緑化環境を維持することができた。			
令和7年度の取組内容			
・ 引き続き、前庭等の維持管理を行うことで、良好な景観の形成と保全に取り組み、施設の魅力を高めていく。			
参考（写真・図表等）			
			
日本平夢テラス前庭			

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	16		
事 業 ・ 取 組 名	県立森林公園アカマツ林再生		
部 局 名 / 団 体 名	くらし・環境部	担当課	環境ふれあい課
基 本 方 針	2 花と緑による地域の魅力向上		
基 本 施 策	(3) 花と緑によるおもてなし空間の創造		
取 組 項 目	☒ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☒ 広報 ☐ その他		
概 要	県立森林公園のアカマツ林は、県内でも希少な、まとまった面積の植物群落であり、公園のシンボルともなっている。 松食い虫被害で減少してしまったが、長年継続してきた防除対策により、近年被害が収束しつつあるため、施設の再整備を契機に、保全から再生への転機となる「保全・再生指針」を策定し、アカマツ林の再生活動を始めている。		
目 標	県、指定管理者、民間ボランティア、企業が連携し、県立森林公園のシンボルであるアカマツ林の再生、保全を図る。		
評 価 方 法	ボランティアによる保全活動の実施状況（回数、参加人数）により評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・ 県立森林公園で活動する森づくりボランティアによる再生活動を毎年2回程度実施している。 ・ しずおか未来の森サポーター制度により企業の協力を得て、苗木の植栽等を継続している。 ・ 防除対策として、空中散布や被害木の伐倒駆除を行っている。			
今後の進め方(令和7年度)			
・ 新たな森林空間の活用により、多様な利用者層を呼び込むとともに、利用者が互いに安全・快適に利用できる施設を目指す。 ・ 地域住民や周辺施設、森林・林業関係者などと連携し、地域の活性化に寄与する。			

評価シート

取 組 番 号	16		
事 業 ・ 取 組 名	県立森林公園アカマツ林再生		
部 局 名 / 団 体 名	くらし・環境部	担当課	環境ふれあい課
令和 6 年度事業費	6,458千円		
令和 6 年度の実績			
・ 県民ボランティアや企業の活動をPRし、参加者を確保しつつ再生活動を行った。 ・ 空中散布等を実施し、松くい虫被害対策を行った。 ・ 令和 7 年 1 月 7 日（火）にサポーター企業によるアカマツの苗づくりを行い、48人が参加した。 ・ 令和 7 年 3 月 8 日（土）にアカマツ林の再生を目指した森づくり活動を行い、11人のボランティアが参加した。			
目標に対する評価			
・ 県、指定管理者、県民ボランティア、企業が連携し、県立森林公園のシンボルであるアカマツ林の再生、保全が継続して行われており、評価できる。			
令和 7 年度 of 取組内容			
・ 利用者が互いに安全・快適に利用できる施設を目指し、森づくりボランティアや企業等と連携したアカマツ林の保全・再生活動を継続する。			
参考（写真・図表等）			
			
県立森林公園サポーター会員によるアカマツ林再生活動			

緑化推進計画 事業個票

取組番号	18		
事業・取組名	さくら愛護思想普及の推進		
部局名/団体名	静岡県さくらの会	担当課	環境ふれあい課
基本方針	2 花と緑のよる地域の魅力向上		
基本施策	(4) 花と緑があるまちの魅力の向上と発信		
取組項目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☒ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☒ 広報 ☐ その他		
概要	静岡県さくらの会ホームページにさくらの情報を掲載するとともに、さくら写真コンクールを開催し、国花である桜を県民に広く普及させる。		
目標	静岡県さくらの会のホームページに毎年度450,000回アクセスしてもらうことで、桜を県民に広く普及させる。		
評価方法	毎年のホームページアクセス数を継続的に記録することにより、その年の傾向と、桜への関心度の変化を評価する。		
関連する管理指標の有無	☒ 有 ☐ 無 静岡県さくらの会ホームページアクセス数（毎年度450,000回）		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・さくらの開花情報提供は平成5年から実施しており、テレビ局や新聞社からの照会も多く、県内のさくらの開花情報が一度にわかるホームページとして定着している。 ・さくら写真コンクールは入賞写真が令和6年度静岡県環境白書の表紙に使用されるなど、県内のさくら写真を集めたデータベースとしての役割も担っている。			
今後の進め方(令和7年度)			
・静岡県さくらの会ホームページや、さくら写真コンクール巡回展示等によりさくらの会の活動を周知し、さくら愛護思想普及を促進していく。また、令和7年度はさくらの会設立60周年に当たるため、記念植樹を実施する。			

評価シート

取 組 番 号	18		
事 業・取 組 名	さくら愛護思想普及の推進		
部 局 名 / 団 体 名	静岡県さくらの会	担当課	環境ふれあい課
令和 6 年度事業費	394千円		
令和 6 年度の実績			
- 県民がさくらに親しむ機会を増やすため、県さくらの会ホームページで県内のさくらの開花情報を掲載した。 （早咲きさくら：27箇所、ソメイヨシノ等：75箇所） - 県内のさくらの魅力を広くアピールするため、「静岡県さくら写真コンクール」を開催し、令和 6 年度は昨年度より110点少ない503点の応募があった。			
目標に対する評価			
- 令和 6 年度のさくら写真コンクールの応募点数は昨年度より減少し、原因としては、近年の急激な気候変動によりさくらの開花時期の予想が難しくなったことや、そもそも写真はデータによる保存やSNSで共有することが一般的になり、プリントして残す人の割合が減少していることなどが考えられる。 - 静岡県さくらの会のホームページのアクセス数はさくらの会のInstagramを開設し、開花情報等の発信を行ったことにより、アクセス数が大幅に増加し、目標を達成した。 管理指標：静岡県さくらの会ホームページアクセス数 令和 6 年度実績 594,079回（達成率132.0%）			
令和 7 年度 of 取組内容			
- 令和 7 年度がさくら写真コンクールの50回記念に当たるため、新たにInstagram部門を特設し、コンクールの活性化を図る。 - さくらの会のInstagramから情報発信を行い、アクセス数増加を目指す。			
参考（写真・図表等）			
			
令和 7 年度静岡県さくら写真コンクール 最優秀賞「競演の朝」		Instagram部門入賞作品	

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	19		
事 業 ・ 取 組 名	さくらの保護育成		
部 局 名 / 団 体 名	静岡県さくらの会	担当課	環境ふれあい課
基 本 方 針	2 花と緑のよる地域の魅力向上		
基 本 施 策	(4) 花と緑があるまちの魅力の向上と発信		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☐ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☒ 広報 ☐ その他		
概 要	さくら功労者の表彰やさくら相談員派遣事業などを実施することで県内の桜の保護育成について地域住民の自主的な活動を奨励する。		
目 標	さくら功労者の表彰やさくら相談員派遣事業を実施することで、さくらの保護育成に関する意識の向上を図る。		
評 価 方 法	さくら相談員派遣を受けた個人、団体からの声を収集し、意識の変化、満足度を評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・ さくら功労者は、市町からの推薦により表彰を行っており、これまでに1団体、3個人を表彰した。 ・ さくら相談員派遣事業は(1)新たなさくら名所整備や再整備の支援、(2)既存のさくらの保護育成の指導の2種類があり、会員の求めに応じて専門家を派遣して技術的な助言を実施した。			
今後の進め方(令和7年度)			
・ 引き続き、さくら功労者の表彰、さくら相談員派遣事業を通じ、国花であるさくらの保護育成を図り、うるおいと安らぎにあふれる県土づくりを推進する。			

評価シート

取 組 番 号	19		
事 業・取 組 名	さくらの保護育成		
部 局 名 / 団 体 名	静岡県さくらの会	担当課	環境ふれあい課
令和6年度事業費	153千円		
令和6年度の実績			
・地域住民の桜保護の自主的な活動の奨励を図るため、桜の愛護、植栽及び研究、その他桜に関して著しい功績があり、他の模範とするに足る団体、個人を表彰しており、令和6年度は島田市から推薦があった個人1人をさくら功労者として決定し表彰した。 ・既存のさくらの保護育成指導として5箇所（南伊豆町、伊豆市、藤枝市、西伊豆町、沼津市）に専門家を派遣し、技術的な助言を実施した。			
目標に対する評価			
・各地でさくらの老朽化が進んでいるが、地域で愛されてきたさくらを伐採することへの抵抗が大きく、倒木や枯れ枝の落下等の心配はあるが、どのように対応して良いかわからない、といった声が多く寄せられている。 ・さくら相談員はそのような声に応え、危険があるものはその旨を明確に伝え、伐採、枯れ枝の除去や、さくらの更新を指導している。 ・さくら相談員派遣を受けた団体からは「伐採することには抵抗があるが、危険な状態であればやむを得ない。」「さくらの世代交代を進めていきたい。」などの声が寄せられ、さくら相談員の派遣がさくら維持管理の助けとなっている。			
・引き続き、さくら功労者の表彰やさくら相談員派遣事業等を実施することで、さくらの保護育成に関する意識の向上を図る。			
参考（写真・図表等）			
 			
さくら相談員派遣事業			

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	20		
事 業 ・ 取 組 名	ふじのくに花の都しずおか・花緑コンクール、花育活動の推進		
部 局 名 / 団 体 名	経済産業部	担当課	農産振興課
基 本 方 針	2 花と緑による地域の魅力向上		
基 本 施 策	(4) 花と緑があるまちの魅力の向上と発信		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☒ 人材育成 ☒ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☒ 広報 ☐ その他		
概 要	地域や学校等での花や緑の植栽や装飾に関するコンクールを開催するとともに地域、企業等が実施する花育講座に講師を派遣し、花の都づくりを推進する。		
目 標	県内における花の都づくりを広く展開するため、地域や企業における花の利活用や、学校等における花育活動を推進する。		
評 価 方 法	花緑出張サービスで実施した花育講座の受講者数2,400人/年		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☒ 有 ☐ 無 花育活動受講者数 (2,400人/年)		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・ 地域、学校、企業、個人等を対象とした花緑コンクールを開催し、優秀な取組について表彰するとともに、広報を行うことにより花緑に関する取組の普及を図った。(令和5年度の開催をもって終了) ・ 「花と暮らす」をテーマに、Instagramフォトコンテストを開催し、入賞写真を広報することで、花のある暮らしについて魅力を発信した。 ・ 「花の都しずおかアドバイザー」を、地域や学校等が実施する園芸教室等に派遣する「花緑出張サービス」を実施し、地域の緑化や花育を推進した。			
今後の進め方(令和7年度)			
・ Instagramフォトコンテストを実施し、花のある暮らしについて魅力を広報することで、地域や企業における花の利活用を推進する。 ・ 花緑出張サービスを実施し、花育活動を推進する。			

評価シート

取組番号	20		
事業・取組名	ふじのくに花の都しずおか・花緑コンクール、花育活動の推進		
部局名/団体名	経済産業部	担当課	農産振興課
令和6年度事業費	3,900千円		

令和6年度の実績

- ・「花と暮らす」をテーマに、Instagramフォトコンテストを開催した。
(令和6年度実績：応募件数258件)
- ・「花の都しずおかアドバイザー」を地域や学校等が実施する園芸教室等に派遣する「花緑出張サービス」を実施した。
(令和6年度実績：花育講座受講者数2,151人)

目標に対する評価

- ・「花緑出張サービス」による花育講座の受講者数は目標人数の約90%であり、目標を概ね達成できた。

管理指標：花育活動受講者数

令和6年度実績 2,151人（達成率89.6%）

令和7年度の取組内容

- ・Instagramフォトコンテストを実施し、花のある暮らしについて魅力を広報することで、地域や企業における花の利活用を推進する。
- ・花緑出張サービスを実施し、花育活動を推進する。

参考（写真・図表等）



花緑出張サービスによる花育講座の様子

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	21		
事 業 ・ 取 組 名	しずおかアダプト・ロード・プログラム		
部 局 名 / 団 体 名	交通基盤部	担当課	道路保全課
基 本 方 針	3 社会総がかりの緑化活動		
基 本 施 策	(5) 社会総がかりの緑化活動への参加促進		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	道路がある一定区間において、住民団体、学校、企業等が、道路清掃や美化活動を行い、行政がこれを支援する。住民活動等と行政が互いに役割分担を定め、両者の協働のもと、美化を進める。		
目 標	快適な道路空間を創出するために、地域住民や企業等の道路清掃や美化活動を支援する。		
評 価 方 法	活動道路延長、活動人数により評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・活動に必要となる各種肥料・種子・苗・培養土等の消耗品の支給を行い、道路美化活動を実施する住民や利用者等の活動を支援している。 ・地域や道路、環境保護に関する意識啓発を図るため、県庁、各土木事務所及び市町のHPや広報誌を用いて広く周知している。			
今後の進め方(令和7年度)			
・参加住民の高齢化が進み、活動が困難となり脱退する事例が出ていることから、県HP等でアダプト・ロード・プログラムの取組を積極的に広報し、若い世代へ制度の周知を図るとともに、各土木事務所において既存団体との意見交換や、新規団体との加入に向けた協議を進め、取組の更なる拡大を図る。			

評価シート

取 組 番 号	21		
事 業 ・ 取 組 名	しずおかアダプト・ロード・プログラム		
部 局 名 / 団 体 名	交通基盤部	担当課	道路保全課
令和 6 年度事業費	3,181千円		
令和 6 年度の実績			
・ 快適な道路空間を創出するため、地域住民、企業等が行う道路清掃や道路美化活動を支援した。 ・ アダプト団体として、令和 7 年 3 月末現在で201団体、活動延長176kmで同意書を締結している。			
目標に対する評価			
・ 地域住民、企業等が行う道路清掃や美化活動を支援したことにより、快適な道路空間の確保が図れている。			
令和 7 年度 of 取組内容			
・ 引き続き快適な道路空間を創出するため、地域住民、企業等が行う道路清掃や美化活動を支援する。			
参考（写真・図表等）			
			
美化活動			

緑化推進計画 事業個票

取組番号	22		
事業・取組名	リバーフレンドシップ制度		
部局名/団体名	交通基盤部	担当課	河川企画課
基本方針	3 社会総がかりの緑化活動		
基本施策	(5) 社会総がかりの緑化活動への参加促進		
取組項目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☒ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概要	県が管理する河川の一定区間において、住民や利用者等がリバーフレンドとなり、清掃や除草等の河川美化活動を行うことにより、河川を地域の共有財産として保全する意識を啓発する。		
目標	リバーフレンド活動を通じて、地域で「みんなの川」を「みんなで守っていく」意識を高め、併せて、身近な河川の治水や環境保全に関する意識啓発を図る。		
評価方法	リバーフレンドシップの活用により良好な河川環境の保全活動の実施状況（団体数等）により評価する。		
関連する管理指標の有無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
- 平成30年度から令和6年度末にかけて、161団体とリバーフレンドシップ制度に関する同意書を締結した。 - 身近な河川の治水や環境保全に関する意識啓発を図るため、令和元年度にパンフレットを作成した。 - 近年のリバーフレンド団体の高齢化による活動力の低下等の課題に対して、河川美化活動における安全の確保に加え、作業効率の向上による負担軽減を図ることを目的に、令和6年度からリモコン式草刈機の貸出しの本格運用を開始した。			
今後の進め方(令和7年度)			
リバーフレンドシップ制度による活動が主体的、継続的に行われるよう、活動団体からの意見を踏まえた制度改善に向けた検討を行う。また、リモコン式草刈機の貸出しを周知してさらなる負担軽減につながるよう、支援を実施していく。			

評価シート

取 組 番 号	22		
事 業 ・ 取 組 名	リバーフレンドシップ制度		
部 局 名 / 団 体 名	交通基盤部	担当課	河川企画課
令和 6 年度事業費	24,920千円		
令和 6 年度の実績			
・ 令和 6 年度は新たに34団体とリバーフレンドシップ制度に関する同意書を締結した。 ・ 河川美化活動における安全の確保に加え、作業効率の向上による負担軽減を目的に、リモコン式草刈機の貸出しの本格運用を開始した。			
目標に対する評価			
・ リバーフレンドシップ制度の同意書を締結し、活動している団体は年々増加している。 ・ 活動しているリバーフレンド団体のなかには、高齢化による活動力の低下などで、締結解除を望む団体も増えている。このため、持続可能な活動のための制度改善に努めていく必要がある。			
令和 7 年度の取組内容			
・ リバーフレンド活動は、身近な河川の治水や環境保全に関する意識啓発を図るため、活動を主体的・継続的に行える制度改善の検討を実施する。 ・ リモコン式草刈機の貸出し状況を整理し、団体の意見を聞いたうえで、効果的なリモコン式草刈機の運用を検討していく。			
参考（写真・図表等）			
			
清掃活動状況 (焼津市・(二)小石川)		リモコン式草刈機使用状況 (袋井市・(二)太田川)	

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	23		
事 業 ・ 取 組 名	ふじのくに美農里プロジェクト		
部 局 名 / 団 体 名	経済産業部	担当課	農地保全課
基 本 方 針	3 社会総がかりの緑化活動		
基 本 施 策	(5) 社会総がかりの緑化活動への参加促進		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☒ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☒ 広報 ☐ その他		
概 要	農業・農村の有する、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成などの様々な働き（多面的機能）を維持・発揮させるため、「ふじのくに美農里プロジェクト」により、農業者や地域住民による地域資源（農地・水路・農道等）を保全する共同活動への支援を行う。		
目 標	「ふじのくに美農里プロジェクト」を活用した農地等の地域資源を保全する活動を広め、多様な主体の参画等を得ながら活動の持続性を確保し、「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」全体の参画者数として、毎年度2,400人増を目指す。		
評 価 方 法	ふじのくに美農里プロジェクトを含め、管理指標である「ふじのくに美しく品格のある邑づくりの参画者数」により評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☒有 ☐無 ふじのくに美しく品格のある邑づくりの参画者数 (87,600人 (2025/R7))		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・ 活動組織や取組農地の拡大が図られ、参画者数は増加した。 (活動組織数：249、交付対象面積：14,614ha、61,957人) ・ 農地法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の路面維持等の基礎的な保全活動のほか、景観形成（農道や耕作放棄地等への植栽）や、生態系の保全（生き物調査、外来種駆除、ビオトープづくり等）など、農村環境の保全のための活動が行われた。			
今後の進め方(令和7年度)			
・ 農業農村整備事業が行われ、担い手農家への集積を進めている地区に重点を置き、新たな取組等を支援し、取組農地の拡大を図る。 ・ 事務作業の効率化や簡素化を図り、取組農地の拡大に向けて、円滑に事業を進められる体制整備を図るため、伴走支援を行う。 ・ 共同活動への参画者を確保するため、農業者だけでなく企業・大学等の多様な主体との連携強化に向け、マッチング支援を行う。			

評価シート

取 組 番 号	23		
事 業 ・ 取 組 名	ふじのくに美農里プロジェクト		
部局名 / 団体名	経済産業部	担当課	農地保全課
令和 6 年度事業費	798,183千円		

令和6年度の実績

- ・農地・水路・農道等の地域資源の保全活動に取り組む、農業者及び地域住民等で構成される活動組織に対し、国・県・市町が多面的機能支払交付金を交付した。
(R6活動組織数：249、交付対象面積：14,614ha)
- ・活動組織は、農地法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の路面維持等の基礎的な保全活動のほか、景観形成（農道や耕作放棄地等への植栽）や、生態系の保全（生き物調査、外来種駆除、ビオトープづくり等）など、農村環境の保全のための活動に取り組んでいる。H30に創設された「関東農政局多面的機能発揮促進事業局長表彰」において、富士市の活動組織が優秀賞を受賞した。

目標に対する評価

- ・活動組織や取組農地の拡大が図られ、年間を通じた活動参加者は増加した。
(R6:61,957人)

管理指標：ふじのくに美しく品格のある邑づくりの参画者数
令和6年度実績 85,767人（達成率97.9%）

令和7年度の取組内容

- ・制度の普及・啓発や表彰制度等を活用した優良な取組等について、取組拡大に向けた広報活動を行う。

参考（写真・図表等）

組織の概要
静岡県富士市の中央部に位置し、富士山麓の南斜面に広がるお茶としきみを中心とした樹園地帯であり、県内でも有数の「根付きしきみ」の産地である。
農地や農業用施設の維持管理、鳥獣害防護柵を設置している。また、ドーム菊の植栽活動により地域の活性化が図られている。
取組面積 116.8ha（畑：116.8ha）

地域資源保全活動
○地域全体で農道やかんがい施設周辺の草刈りや遊休農地の安全管理を年2回実施している。
○農道脇の崩れやすい法面などに防草シートを設置し、草刈り作業の軽減を図っている。

農村環境保全活動
○地区内にある遊休農地の2箇所を活用し、ドーム菊を植栽する事で景観保全に努めている。

多面的機能の増進を図る活動
○農などの獣害による名産の根付きしきみへの害が多いため、計画的に地区内に獣害防護柵を設置している。（13カ所総延長約4.9km）
○本地域ではかん用水のバリエーション近くにホース格納箱を設置し、初期出火等の対応として、防火用水としても活用している。地元中学生や地域住民及び消防署と連携し防災の日には消火訓練を実施している。

施設の維持管理活動
○パイプラインやファームボンドに付帯する操作盤等の電気施設の巡回点検を実施するとともに、補修が必要な給水栓等の部品交換を実施している。また、農道の舗装補修を実施している。

取組の成果
○地域住民と連携して植栽を実施することにより、地域コミュニティの強化につながるとともに、地域活性化及び交流人口の増加につながっている。
○施設の適切な維持管理及び獣害防護柵の設置により特産品である「根付きしきみ」の生産性の維持に貢献している。
○農家や地域住民の農業施設に対する管理意識が向上した。

「関東農政局多面的機能発揮促進事業局長表彰」優秀賞
今神倶楽部（富士市）

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	24		
事 業 ・ 取 組 名	一社一村しずおか運動		
部 局 名 / 団 体 名	経済産業部	担当課	農地保全課
基 本 方 針	3 社会総がかりの緑化活動		
基 本 施 策	(5) 社会総がかりの緑化活動への参加促進		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☒ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☒ 広報 ☐ その他		
概 要	農山村と企業が対等な関係のパートナーシップを組み、それぞれの資源、人材、ネットワーク等を生かした双方にメリットのある協働活動の実現を目指し、農山村と企業の要望を県がコーディネートする取組。平成30年1月末時点で34の農山村地域と39の企業団体が認定されている。		
目 標	県やしずおか農山村サポーター「むらサポ」のウェブサイトを通じて先駆的な優良事例を紹介し、「企業」「農村」双方の意識の醸成と取組の拡大を図り、「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」全体の参画者数として、毎年度2,400人増を目指す。		
評 価 方 法	一社一村しずおか運動を含め、管理指標である「ふじのくに美しく品格のある邑づくりの参画者数」により評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☒ 有 ☐ 無 ふじのくに美しく品格のある邑づくりの参画者数 (87,600人 (2025/R7))		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・ 令和6年度までに36農山村地域と42企業団体を認定。 ・ 協働により、草刈や農作物の植付け・収穫といった農地保全活動、桜の植樹や芝桜の植栽等による地域の景観向上等の取組が行われた。			
今後の進め方(令和7年度)			
・ 農村と企業とのマッチング支援プラットフォームサイト「むらマッチ」を活用し、農村と企業とのマッチング及び新たな取組を支援する。			

評価シート

取 組 番 号	24		
事 業 ・ 取 組 名	一社一村しずおか運動		
部 局 名 / 団 体 名	経済産業部	担当課	農地保全課
令和 6 年度事業費	— 千円		
令和 6 年度の実績			
・活動を縮小した企業があったため、令和 6 年度は参画者数がやや減少した。 (R6:1,330人)			
目標に対する評価			
・新たに農山村と企業の取組認定はなく、本取組による参画人数はやや減少した。 管理指標：ふじのくに美しく品格のある邑づくりの参画者数 令和 6 年度実績 85,767人（達成率97.9%）			
令和 7 年度の取組内容			
・農村と企業とのマッチング支援プラットフォームサイト「むらマッチ」を活用し、農村と企業とのマッチング及び新たな取組を支援する。			
参考（写真・図表等）			
 一社一村しずおか運動の取組による芝桜の苗の植栽ほか			

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	25													
事 業・取 組 名	森づくり県民大作戦													
部 局 名 / 団 体 名	くらし・環境部						担当課				環境ふれあい課			
基 本 方 針	3 社会総がかりの緑化活動													
基 本 施 策	(5) 社会総がかりの緑化活動への参加促進													
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☒ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他													
概 要	環境ふれあい課のホームページに、各森づくり団体が開催する森づくりイベントを掲載するとともに、各農林事務所主催の森づくりイベントを開催し、県民総参加による森づくりを推進する。													
目 標	森づくり県民大作戦へ毎年度28,000人参加してもらうことで、県民が森林を守り、育て、活かす行動を実践する機会を提供する。													
評 価 方 法	森づくりボランティア団体、企業、市町、県などの行事参加者の実績を集計し、評価する。													
関 連 す る 管理指標の有無	☒ 有 ☐ 無 森づくり県民大作戦参加者数(毎年度28,000人)													
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)														
平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
行事	人数	行事	人数	行事	人数	行事	人数	行事	人数	行事	人数	行事	人数	
938	28,271	755	28,149	648	11,898	657	12,972	674	17,632	810	19,317	1,264	22,760	
新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降大きく減少したが、令和6年度は前年より3,443人増加するなど、参加者数は回復傾向にある。														
今後の進め方(令和7年度)														
・森づくり団体の持続的活動に向けて、ボランティア養成講座による新規参加者の確保や、交流会開催による団体の連携促進、アドバイザー派遣による課題解決の伴走支援に取り組む。														

評価シート

取 組 番 号	25		
事 業 ・ 取 組 名	森づくり県民大作戦		
部 局 名 / 団 体 名	くらし・環境部	担当課	環境ふれあい課
令和6年度事業費	7,924千円		
令和6年度の実績			
「森づくり県民大作戦参加者数」は森づくり団体等に対し直接参加を働きかけたことや、SNS活用による情報発信の強化等に取り組んだ結果、参加者が約2割増加した。			
目標に対する評価			
森づくり団体のメンバーの固定化や高齢化が進んでいることから、目標達成に向け、新たな担い手の確保等、持続的活動に向けた支援が必要である。 管理指標：森づくり県民大作戦参加者数 令和6年度実績 22,760人（達成率81.3%）			
令和7年度の取組内容			
森づくり団体が持続的に活動できるよう、ボランティア養成講座による新規参入者の確保や、交流会開催による団体の連携促進、アドバイザー派遣による課題解決の伴走支援に取り組む。			
参考（写真・図表等）			
			
森づくり県民大作戦			

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	26		
事 業 ・ 取 組 名	しずおか未来の森サポーター		
部 局 名 / 団 体 名	くらし・環境部	担当課	環境ふれあい課
基 本 方 針	3 社会総がかりの緑化活動		
基 本 施 策	(5) 社会総がかりの緑化活動への参加促進		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☒ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☒ 広報 ☐ その他		
概 要	しずおか未来の森サポーター企業及びふじのくに森の町内会への参加企業数を増やすことが、森林整備及び緑化推進に寄与することから、広報や普及啓発により参加を促進する。		
目 標	しずおか未来の森サポーターに144社の企業に登録してもらうことで、社会貢献活動やSDGs達成の取組を森づくりにつなげる。		
評 価 方 法	新たにサポーター協定を締結した企業等の実績を集計し、評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☒ 有 ☐ 無 しずおか未来の森サポーター企業数(144社 (2025/R7))		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・「しずおか未来の森サポーター企業数」は、企業の社会貢献活動やSDGsへの関心が高まる中、イベントやセミナー会場等での積極的なPRを継続した結果、令和6年度末までに参画企業の累計が157社となった。			
今後の進め方(令和7年度)			
・多様化している企業の社会貢献活動へのニーズに応えるため、森づくりや地域緑化を通じた課題解決などを、サポーターメニューに反映させていく。 ・企業が地域や森づくり団体と協働し、本業を活かしながら持続的な活動を実施できるよう、県は、ハード(対象森林)、ソフト(活動内容)に加え、人材(活動を補助するNPO法人、森づくり団体など)のマッチングを行い、より多くの企業の参加を促進していく。			

評価シート

取 組 番 号	26		
事 業 ・ 取 組 名	しずおか未来の森サポーター		
部 局 名 / 団 体 名	くらし・環境部	担当課	環境ふれあい課
令和 6 年度事業費	7,924千円		
令和 6 年度の実績			
・「しずおか未来の森サポーター企業数」は、「ふじのくに森の町内会・間伐に寄与する紙」に興味を示した企業にきめ細かに対応した結果、新たに5社の参加が得られた。			
目標に対する評価			
・毎年度着実に新規参加企業を増やし、令和 6 年度末にしずおか未来の森サポーター参加企業数は、157社となった。 管理指標：しずおか未来の森サポーター企業数 令和 6 年度実績 157社（達成率109%）			
令和 7 年度 of 取組内容			
・企業等の森づくり活動への参画を促進するため、市町や森づくり団体等と連携し、活動フィールドの確保や活動の支援体制の構築に取り組む。			
参考（写真・図表等）			
			
エンシュウ株式会社による植樹		アサヒ飲料株式会社による草刈り	

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	27		
事 業 ・ 取 組 名	ふじのくに森の防潮堤づくり		
部 局 名 / 団 体 名	経済産業部	担当課	森林保全課
基 本 方 針	3 社会総がかりの緑化活動		
基 本 施 策	(5) 社会総がかりの緑化活動への参加促進		
取 組 項 目	☒ 緑化整備 ☐ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☐ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	遠州灘海岸で進めている「ふじのくに森の防潮堤づくり」を県民参加で推進する。		
目 標	地域住民や地元企業との協働による植樹祭等を実施することで、防潮堤への理解促進と植栽木の管理等への協力意識の醸成を図る。		
評 価 方 法	植樹祭等への参加者からの声を収集し、防潮堤への理解度や協力意識の変化を評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☐ 有 ☒ 無		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・ 森の防潮堤施工地見学会 9回(参加総人数 365人) ・ 森の防潮堤植樹祭 20回(参加総人数 4,026人) ・ 森の防潮堤下刈 5回(参加総人数 576人)			
今後の進め方(令和7年度)			
・ 今後も、海岸防災林が地域にとって重要な施設であることの理解の促進と、植栽木の維持・管理等への協力の意識醸成を図るため、市、地元住民及びNPO法人等との協働を推進する。			

評価シート

取 組 番 号	27		
事 業 ・ 取 組 名	ふじのくに森の防潮堤づくり		
部 局 名 / 団 体 名	経済産業部	担当課	森林保全課
令和 6 年度事業費	— 千円		
令和 6 年度の実績			
・ 浜松市、磐田市、袋井市、掛川市及び御前崎市の海岸防災林において、植樹祭や保育等の活動が12回実施され、地域住民やNPO法人等から約2,100人が参加した。			
目標に対する評価			
・ 植樹祭等を通じて、地域住民等に海岸防災林が持つ機能とその重要性を広く周知することができた。 ・ 植樹祭に加え、保育の活動も行われるようになり、地域住民等の植栽木の管理等への協力意識の醸成が図られつつある。			
令和 7 年度の取組内容			
・ 引き続き、海岸防災林が地域にとって重要な施設であることの理解の促進と、植栽木の維持・管理等への協力の意識醸成を図るため、市、地元住民及びNPO法人等との協働を推進する。			
参考（写真・図表等）			
・ 令和 6 年度の植樹祭の様子（磐田市及び掛川市）			
 磐田市		 掛川市	
		 磐田市	

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	28		
事 業 ・ 取 組 名	緑化グループ支援事業		
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク	担当課	環境ふれあい課
基 本 方 針	3 社会総がかりの緑化活動		
基 本 施 策	(5) 社会総がかりの緑化活動への参加促進		
取 組 項 目	☒ 緑化整備 ☒ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☒ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	本事業は、地域緑化活動の推進及び花と緑にあふれた潤いのある空間づくりを促進し、県民の緑化思想の高揚に寄与するため緑化活動を実施するボランティアに対し、その活動に要する経費を支援する。		
目 標	緑化グループ支援事業を毎年度140団体実施することにより、自立した緑化活動の推進と地域コミュニティの形成を支援する。		
評 価 方 法	緑化グループ支援事業を実施した団体数により、評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☒ 有 ☐ 無 地域の緑化活動団体数（累計300団体（2025/R7））		
これまでの実績(平成30年度～令和6年度)			
・ 地域のボランティア団体が行う公的花壇等の維持管理活動に伴う経費を支援した。公的花壇等の維持管理は、多くの人手と資金が必要となるが、ボランティア団体がグリーンバンクの支援を得て実施したことにより、市町の負担は軽減され、市民に花と緑による潤いや癒しの空間を提供している。 ・ 平成30年度から令和6年度までの累計支援団体数は986団体である。			
今後の進め方(令和7年度)			
・ 地域の緑化づくりには、ボランティアの存在を欠くことができない。これまで町内会などを中心に組織されていたが、高齢化や人口減少などで組織の弱体化が懸念される。今後は企業など新たな層への働きかけを行い、社会総がかりの緑化活動を推進する。 ・ 高齢化が進むボランティア団体は、人材確保、補助金申請、最新の植栽技術の情報入手などに苦慮している。補助事業関係書類の簡素化を図るとともに、専門家による支援体制を充実させる。			

評価シート

取 組 番 号	28																						
事 業・取 組 名	緑化グループ支援事業																						
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク	担当課	環境ふれあい課																				
令和 6 年度事業費	13,217千円																						
令和 6 年度の実績																							
- 令和 6 年度は、128箇所の地域ボランティア団体に対して、公的花壇等の維持管理のための経費を支援した。 - 昨年度に引き続き65歳以上の会員が中心となって活動する団体を対象に、高齢者の意欲と豊富な知識を活用することで、持続可能な緑化活動の実現を目指した。また、ボランティアと学校が協働する学校花壇の維持管理を推進した。																							
目標に対する評価																							
地域の公共的花壇は、緑化グループ支援事業を活用してボランティア団体を支援することで良好に管理され、地域住民に潤いと安らぎを与えている。 管理指標：地域の緑化活動団体数 令和 6 年度実績294団体（達成率98%）																							
令和 7 年度の取組																							
- 令和 5 年度に補助事業実施要領を改定し、申請方法の簡素化や事業内容の明瞭化を図った。東中西の地区別で補助事業説明会を開催することで、新しい実施要領や効果的な花壇づくりなどについて周知する。 - 地域と学校が連携して花壇活動に取り組む学校緑化活動グループ支援枠の取り組みを推進し、学校と地域の連携・協働のための体制づくりに努める。																							
参考（写真・図表等）																							
地域の緑化活動団体数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>令和 4 年度</th><th>令和 5 年度</th><th>令和 6 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緑化グループ支援</td><td>179</td><td>195</td><td>209</td></tr> <tr> <td>景観づくり</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td></tr> <tr> <td>芝生管理活動</td><td>56</td><td>63</td><td>72</td></tr> <tr> <td>計</td><td>248</td><td>271</td><td>294</td></tr> </tbody> </table>				年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	緑化グループ支援	179	195	209	景観づくり	13	13	13	芝生管理活動	56	63	72	計	248	271	294
年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度																				
緑化グループ支援	179	195	209																				
景観づくり	13	13	13																				
芝生管理活動	56	63	72																				
計	248	271	294																				
 向手越町内会花の会																							

緑化推進計画 事業個票

取 組 番 号	29		
事 業 ・ 取 組 名	緑化コーディネーターの育成・活用		
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク	担当課	環境ふれあい課
基 本 方 針	3 社会総がかりの緑化活動		
基 本 施 策	(6) 緑化活動の核となる人材の育成		
取 組 項 目	☐ 緑化整備 ☒ 人材育成 ☐ 普及啓発 ☒ 連携・協働 ☐ 緑化維持 ☒ 緑化支援 ☐ 広報 ☐ その他		
概 要	緑化の技術・知識などを持った、地域活動の核となる人材を育成するとともに、庭園デザインの専門家などを各地域に派遣し、緑化活動を支援する。		
目 標	緑化コーディネーター養成講座（専門別緑化技術修得コース（花壇づくり研修会）・緑化コーディネーター養成コース）の修了者数の累計人数を390人にすることにより、緑化活動の核となる人材を育成する。		
評 価 方 法	緑化コーディネーター養成講座の修了者の累計人数により、評価する。		
関 連 す る 管 理 指 標 の 有 無	☒ 有 ☐ 無 緑化コーディネーター養成講座修了者数 （累計390人（2025/R7））		
これまでの実績（平成30年度～令和6年度）			
・ 地域が主体となり質の高い緑化を実現するためには、確かな技術力と指導力を持った緑化活動の核となる人材が必要である。緑化等に関する複数の専門的知識を修得するための講座や研修会を実施した。 ・ 平成30年度から令和6年度までの緑化コーディネーター養成講座の累計修了者数は639人である。			
今後の進め方（令和7年度）			
・ 緑化ボランティア活動は、参加するメンバーとの意思疎通やコミュニケーションづくりが重要である。そうした能力を養うカリキュラムを充実させる。			

評価シート

取 組 番 号	29				
事 業 ・ 取 組 名	緑化コーディネーターの育成・活用				
部 局 名 / 団 体 名	静岡県グリーンバンク	担当課	環境ふれあい課		
令和 6 年度事業費					4,743千円
令和 6 年度の実績					
- 令和 6 年度の緑化コーディネーター養成講座の修了者数は、専門別緑化技術修得コース（花壇づくり研修会）115人、緑化コーディネーター養成コース11人、合計126人である。 - 受講者が参加しやすいように、昨年度に引き続き、テーマ別に 1 日コースを設けて開催した。					
目標に対する評価					
- 緑化コーディネーター養成講座修了者数 目標（R7）：累計390人 実績R6：639人 達成率：163.8% 単年度で50人の増加を見込んでいる。R6は126人の増加。 - 緑化コーディネーター養成講座の修了生を緑化グループ支援事業の新規団体に派遣し緑化活動の支援を行った。（22団体22回）					
令和 7 年度 of 取組内容					
- 緑化コーディネーター養成コースは、現地視察を含め 5 日間コースとして開催する。 - 花壇づくり研修会は、基礎コースとスキルアップコースの選べる 2 つのコースと両コース共通の視察実習として開催するほか、テーマ別に 1 日コースを開催し、緑化に関わる人材のすその拡大と緑化専門技術の向上を図る。					
参考（写真・図表等）					
○緑化コーディネーター養成講座等					（単位：人）
年度	平成30年度～ 令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
累計修了者数	267	230	360	513	639
					

2 管理指標

①花と緑を慈しむ文化の創造

目 標	後期目標 (新目標)	令和5年度 実 績	令和6年度 実 績	(参考)総合計画後期AP		担 当
	2025/R7	2023/R5	2024/R6	成果指標	活動指標	
自然ふれあい施設における自然体験プログラム実施回数	毎年度 180回	196回	178回	—	○	環境ふれあい課
豊かな暮らし空間創生住宅地の区画数	累計 600区画	累計 379区画	累計 379区画	○	—	住まいづくり課
芝生文化創造プロジェクトで芝生化した 園庭・校庭数	96箇所	78箇所	86箇所	—	○	環境ふれあい課
複数の園庭・校庭に芝生を導入している 市町数	35市町	19市町	19市町	—	—	環境ふれあい課
地域の緑化活動団体数	累計 300団体	累計 271団体	294団体	○	—	環境ふれあい課
緑化コーディネーター、芝生アドバイザー派 遣箇所数	80箇所	69箇所	68箇所	—	—	環境ふれあい課
緑化優良工場としての受賞件数	累計 80件	累計 95件	累計 98件	—	—	企業立地推進課

②花と緑による地域の魅力向上

目 標	後期目標 (新目標)	令和5年度 実 績	令和6年度 実 績	(参考)総合計画後期AP		担 当
	2025/R7	2023/R5	2024/R6	成果指標	活動指標	
静岡県さくらの会ホームページアクセス数	毎年度 450,000回	407,467回	594,079回	—	—	環境ふれあい課
花育活動受講者数	毎年度 2,400人	2,305人	2,151人	—	○	農産振興課
参考 指標	全国花のまちづくりコンクール 受賞件数	累計 195件	累計 156件	—	—	環境ふれあい課
	市町主催花緑コンクールの応募 件数	700件	534件	—	—	環境ふれあい課

③社会総がかりの緑化活動

目 標	後期目標 (新目標)	令和5年度 実 績	令和6年度 実 績	(参考)総合計画後期AP		担 当
	2025/R7	2023/R5	2024/R6	成果指標	活動指標	
森づくり県民大作戦参加者数	毎年度 28,000人	19,317人	22,760人	○	—	環境ふれあい課
ふじのくに美しく品格のある邑づくりの 参画者数	87,600人	81,454人	85,767人	○	—	農地保全課
しずおか未来の森サポーター企業数	144社	152社	157社	—	○	環境ふれあい課
緑化コーディネーター養成講座修了者数	累計 390人	累計 513人	累計 639人	—	○	環境ふれあい課

静岡県くらし・環境部環境局
環境ふれあい課
〒420-8601
静岡県静岡市葵区追手町9番6号
電話番号 054-221-2849
発行日：2025年8月